

平成 17 年度
当初予算

市民と一体感のあるまちづくり 徹底した行財政改革に積極

山陽小野田市の平成 17 年度の当初予算（通年予算）が決まりましたので、お知らせします。

今年度は合併に伴い特別会計も増えたことなどにより、総額で 7 億 2,038 万 2 千円となり、うち一般会計は前年度比 0.6% 増の 273 億円となりました。

本年度は、昨年より一部民間需要が持ち直す動きが見られたことなどもあり、景気もやや回復基調にあるようですが、依然として厳しい財政事情の下での予算編成となりました。

しかしそうした中でも、市民福祉の増進と市勢の発展のため、限られた予算の効率的かつ適正な配分により事業の重点化を図り、健全な財政運営に努めてまいります。

【問い合わせ先】 財政管理課 (☎ 82-1131)

平成 17 年度 各会計予算額

会計名		予算額	対前年度増減率
一 般 会 計		273 億円	0.6%
特別 会計	訪問看護ステーション事業	3,286 万 7 千円	△0.1%
	土 地 取 得	7,796 万 8 千円	△25.4%
	駐 車 場 事 業	5,117 万円	16.3%
	国 民 健 康 保 険	63 億 6,930 万 7 千円	1.2%
	介 護 保 険	35 億 6,008 万 3 千円	△0.3%
	老 人 医 療	86 億 5,434 万 6 千円	△4.7%
	地方卸売市場事業	1,777 万 5 千円	△15.7%
	下 水 道 事 業	39 億 5,034 万円	3.7%
	農 業 集 落 排 水 事 業	8,820 万 1 千円	△3.7%
公営 企業 会計	小型自動車競走事業	135 億 6,778 万 2 千円	△31.3%
	水 道 事 業	23 億 3,034 万 8 千円	△9.7%
	工 業 用 水 道 事 業	3 億 5,903 万円	△2.3%
	病 院 事 業	61 億 6,116 万 5 千円	△2.1%

予算編成にあたっての

市長施政方針

(6月定例議会での演説より抜粋)



我が国の経済は、世界経済の回復が続く中で、生産や設備投資が増加するなど企業部門が改善することを背景に、景気回復が雇用・所得環境の改善を通じて家計部門へ波及する動きが強まり、消費は着実に増加すると見込まれますし、その結果、民間需要中心の緩やかな回復が続くものと予想されます。

地方におきましては、依然として地方税を中心とした一般財源収入と歳出規模の大幅な乖離という根本的な問題を抱えながらも、住民に最も身近な行政主体として数多くの課題に直面しており、その責務は益々増大し、かつ重大になると思われま

す。また、今後の約 10 年間は市町村合併の成果を問われる期間として、新たな社会資本の整備やソフト事業の充実が期待される一方、財政健全化への取り組みが最重要課題となっています。

このような状況の中、3月22日に小野田市と山陽町が合併し、山陽小野田市が誕生いたしました。合併に至るまでには、その枠組みの問題等、住民の皆さんの間で意見が対立するなど、様々な紆余曲折がありました。しかし、いずれの意見も地域の発展や住民生活の向上を願ったものに違いはなく、これからは市民が一致団結して、共に汗を流し、一体感のあるまちづくりを推進することが必要であろうと考えております。

私 (= 白井市長) も 4 月末より市政を担わせていただくこととなり、私の基本姿勢である「公平・公正・公明正大」のもと、「市民参加による市民本位のまちづくり」を推進して参りたいと考えております。その方法といたしましては、市民の皆さんに行政の計画立案の段階から参画していただく、その機会として、審議会や委員会における公募委員枠を拡大していきます。また、市民の皆さんから意見を伺う手段として、市民の公募による「まちづくり市民会議」を設置するほか、新たに「対話の日」を設け、私が直接地域に出向き、車座になって住民の声を聞く機会をつくります。さらに、常設型の住民投票条例の制定やパブリックコメント制度(市民提言制度)の導入に取り組むなど、様々な場面で市民参画を取り入れていきます。